

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 子どもを支援していくためにはその子の困り感に寄り添い、見通しを持てるように環境を整えて過ごしやすくすること、できたら褒めて感謝の気持ちを伝えることで自己肯定感をもてるようにすること、必要な支援を継続して挑戦する気持ちをもてるように援助していくことが大事だと再認識できました。保護者との連携は信頼関係を築き、傾聴・共感をしながら子どもの成長を共に喜び合うことができるようにしていきたいです。
- ◆ 障害のある子どもだけでなく、様々な子どもたちにあてはまる内容だと感じました。物の考え方は様々ですが前向きに考えると、その子それぞれの短所は個性であり、長所に言い換えることができるかと再確認しました。時間や内容などいつもと同じでない不安になってしまう子どももいますが、できたときや問題行動を行わなかったときに褒めて話を終わるなど、肯定的に関わると子どもたちの毎日も楽しくなると感じました。
- ◆ 障害のある子どもたちを理解し、支援する上で環境を整えること、そして枠組みを作ることは大切であると理解できました。子どもに合った対応を工夫することが大切で、ゆっくりと肯定的な言葉がけをしたり、自信をもてるように褒めることで様々なことに興味や意欲をもつことに繋がります。同時に子育てや子どもの将来に不安をもつ保護者とは積極的にコミュニケーションをとって信頼関係をつくり、心情に寄り添ってその立場で考えてみることも大切だと思いました。
- ◆ サポートを必要とする子どもがトラブルを起こすと私たちだけでなく、周りの子どもたちも困ることがあるかもしれませんが、それ以上に誰よりもその子自身が困っていて苦しいということを理解したいです。一つ一つの言動をポジティブに捉え、できることの嬉しさ、褒められることの心地よさをより多く経験できるように寄り添い、周りの子どもたちには他を認め、思いやる気持ちを持てるように私自身も常に子どもの目線で行動することを忘れず一緒に成長していく努力をしていきたいです。
- ◆ 障害のある子どもへの具体的な支援の方法を学ぶことができました。困り感や不安感を取り除くために必要な環境づくりや伝え方など様々な対応がありましたが、これは特別な支援を必要としない子どもにも共通する点が多いと感じました。子どもとの関わりの中で苦手だと思うことがあってもその子の良さを色々な視点で探し、強みを見つけて伸ばしていきたいと思いました。